

# テロ対策・災害対策に関する 危機管理の研究法・福田 充教授

災害やテロに対する研究はじめたきっかけは、家の危機管理と、そうし、1995年の阪神・淡路の大地震と地下鉄サリン事件のあり方について研究していた福田充教授。「多くの犠牲者を出しているこのテーマを専門的に研究したい」という思いで、この2つの事例によっ



ワシントンDCのアメリカ国務省にて

て、日本の危機管理体制の甘さが露わになりました。一方のマスコミは、そうした政府の対応を批判するばかりで、有効な解決策を提示できない。災害やテロ、戦争などの有事の際には、一人でも多くの命を救うには、国やメディアはどうあるべきか。私はメディア研究に携わる者として、この問題に挑むことにしたので

「災害やテロへの対策は、政策に結びつかなければ意味がない」との考えから、内閣官房等の危機管理関連の委員会にも参加。さらには、メディア研究者として培ってきたマスコミとのパイプを生かし、

## 国内外で調査活動を展開 海外派遣の成果を研究に生かす 国やメディアに対策を提言

メディアに向けても報道のあり方を提言している。米国内でのテロ対策研究

近年、テレビや携帯電話で緊急地震速報を伝えるなど、災害対策にメディアを活用する取り組みが進んでいる。このように、災害時においては国とメディアは協力体制を構築しやすい。しかし、



コロンビア大学では学内外の多くの研究者と交流を深めた

以降、日本では大規模なテロ事件は起きていませんが、それ以前には多くのテロ事件を経験してきたことを忘れてはいけません。政府もメディアも、テロ対策という問題と本気で向き合う時期にきているのです。」

「9・11以降、アメリカ政府はCIAやFBIといったインテリジェンス機関を強化することで、テロの脅威に対抗してきました。また、メディアに対しては報道の自由の原則を尊重しながらも、時には報道の自由を要請するといった新たな問題も発生した」

## 医療・福祉機器およびユニバーサルデザインの研究開発 芸術・肥田 不二夫教授

専攻はインダストリアルデザイン。日本語でもデザイン市場が注目しているのがUDだ。「工業デザイン」と呼ばれるのがUDだ。たとえば「安全」に配慮した自動ドアや温水洗浄便座、缶ビールに記された点字などがある。そのコンセプトと肥田教授

主体としている。なかでもデザイン市場が注目しているのがUDだ。たとえば「安全」に配慮した自動ドアや温水洗浄便座、缶ビールに記された点字などがある。そのコンセプトと肥田教授



インフォメーション機器開発におけるUD実験風景 (正面が肥田教授)

## すべての生活者が最適に 高齢社会を見据えた新製品を開発

使いやすさは機会均等です。そうした意図を踏まえた製品開発研究は数多い。これらには特許申請を済ませ、デザインコンペで受賞した製品も含まれる。

性との関係にあり、形状や色彩だけでなく、香りやおよぼラウンドの損傷をも十分に新しい素材に軽減する優れモノだ。さり得る」と話す。肥田教授の共著に「棟梁に学ぶ家」がある。三宅島に8年弱通い、実際に触れ、本格的にUD研究に目を向け始める。「本



奥気発生装置



桜門会館前のポラード

を建てた。「モノは簡単にできない。何らかの基準、原理があるはず。ここでモノづくりの基本を学びました」と語る。当時、UDは未開拓の領域だったが、その後フィンランドの大学に客員研究員として渡欧。北欧のデザイナーの大きな

に必要の感性を磨いていきます」と話す。企業からの依頼は、大手から中小まで幅広い。共同研究の成果は、昨年だけでも4例ある。たとえば「ユニバーサルデザインによるインフォメーション機器の研究開発」は、UDに操作できるような配慮が求められるのが特徴だ。新しい視点で求められているのが、誰を

プロジェクトを組み一体となって研究開発に取り組み。綿密な調査から始まり、実験、データの集積、企業を交えての中間発表、アイデアをチームで共有し、最終プレゼンテーションに臨む。「この一連のプロセスのなかで、学生は問題解決能力や総合的視野など、実務に必要な感性を磨いていきます」と話す。企業からの依頼は、大手から中小まで幅広い。共同研究の成果は、昨年だけでも4例ある。たとえば「ユニバーサルデザインによるインフォメーション機器の研究開発」は、UDに操作できるような配慮が求められるのが特徴だ。新しい視点で求められているのが、誰を

「安全・安心」と自由・人権という価値対立の問題は、日本でも今後、重要な課題となるでしょう。私も今回の海外派遣の成果を元に日本でも仕方がないのか、もしくは危機事態において政府やメディアに対して、安全・安心より自由・人権が優先されるべきかと考えています」。

福田 充 (ふくだ・ニケイ) 学芸員研究員 (平成9年) 本学芸術 (10年) 日本デザイン芸術専門学校工業デザイン学会、日本人間工学専攻卒。赤井電機、共用推進機構、(財)日本産業デザイン専任講師、助教授を経て現職。早稲田大学非常勤講師。稲田大学非常勤講師。イン賞 (Gマーク) 審成 (459年)、フィンランド国立美術工芸大

福田 充 (ふくだ・ニケイ) 学芸員研究員 (平成9年) 本学芸術 (10年) 日本デザイン芸術専門学校工業デザイン学会、日本人間工学専攻卒。赤井電機、共用推進機構、(財)日本産業デザイン専任講師、助教授を経て現職。早稲田大学非常勤講師。稲田大学非常勤講師。イン賞 (Gマーク) 審成 (459年)、フィンランド国立美術工芸大

福田 充 (ふくだ・ニケイ) 学芸員研究員 (平成9年) 本学芸術 (10年) 日本デザイン芸術専門学校工業デザイン学会、日本人間工学専攻卒。赤井電機、共用推進機構、(財)日本産業デザイン専任講師、助教授を経て現職。早稲田大学非常勤講師。稲田大学非常勤講師。イン賞 (Gマーク) 審成 (459年)、フィンランド国立美術工芸大